

資料5 都市計画審議会のご意見と区の考え

ご意見			区 の 考 え	
1	第3章	豊島区との接点となる都市拠点について	<p>○本郷三丁目駅周辺が都市拠点に位置付けられたが、9つの都市拠点にはそれぞれ意味があると思う。区を中心に春日・後樂園の都市核、それ以外の都市拠点は都心区との区境で交流のある、例えば、台東区との区境の湯島、千代田区との区境の御茶ノ水、水道橋、飯田橋、新宿との区境の江戸川橋が都市拠点として組まれている。さらに、文京区は大学のまちでもあるので東大がある本郷三丁目、東洋大がある白山、中央大がある茗荷谷を中心とした、非常に分かりやすい、文京区らしい都市核、都市拠点が構成されている。ただ、豊島区との接点に位置づけが無いが、今後、文京区としては護国寺周辺が重要になると思うので、考えておいてほしい。</p>	<p>○今回の見直しにおいて、「都市拠点」の位置付けにあたっては、駅の「年間乗降客数」を考慮しています。東京都の都市計画区域マスタープランでは、鉄道乗車人員が1,600万人/年以上の駅周辺を「活力とにぎわいの拠点」とし、鉄道乗車人員が1,000万人/年以上の駅周辺を「地域の拠点」と位置付けており、こうした駅乗降客数と現行都市マスタープランにおける拠点の位置づけを考慮しました。</p> <p>○「護国寺駅」は「江戸川橋駅」に次ぐ乗降客数を有する駅であり、ご指摘のような駅周辺におけるまちづくりの動向を含めて、次期都市マスタープランの改定において、改めて位置づけを検討します。</p>
2		都市拠点における隣接区との連携について	<p>○湯島は特に上野とつながっているイメージが強いまちであり、都心地域のまちづくり方針図を見ても、隣接地域との連携という言葉が見当たらない。例えば、湯島では上野と連携している地域で物事を進めたりするので、都市マスタープランに隣接区との連携という言葉が入っていたほうが、行政としても連携しやすいと思う。</p>	<p>○第5章の「5-1 都心地域」「(3) 地区のまちづくり」において、湯島駅周辺について、「隣接する台東区の上野・浅草地区も含めた地域特性を踏まえつつ、地下鉄やバスを相互に連絡する歩行空間の整備を進めるとともに…」と記載し、御茶ノ水駅周辺は「JR御茶ノ水駅周辺でのバリアフリー、交通広場の整備に併せて…」という記載の中で、隣接区との連携を踏まえた記載をしています。</p> <p>○また、第3章の将来都市構造図において、隣接区との連携を踏まえ、隣接区の都市計画マスタープランにおける拠点位置を配置しました。</p>
3		都市拠点の位置づけの根拠について	<p>○根津・千駄木は、都市拠点の位置づけがないが、都市拠点の位置づけに際して地下鉄の乗降客数を参考にしているとあるが、乗降客数についてどの程度の数字を基準としているのか。</p> <p>都市拠点の説明で、「都市機能が集積し、鉄道乗車人員数が多い駅周辺を都市拠点として位置づけます」と記載しているから、都市機能は例えば業務床とか、乗車人員数はデータがあって、何かの基準で線を引いているのではないかと思うので、それを明確にしておけばよいのではないか。</p>	<p>○今回の見直しにおける「都市拠点」の位置付けにあたっては、駅の「年間乗降客数」を考慮しています。東京都の都市計画区域マスタープランでは、鉄道乗車人員が1,600万人/年（※乗降客数3,200万人/年）以上の駅周辺を「活力とにぎわいの拠点」とし、鉄道乗車人員が1,000万人/年（※乗降客数2,000万人/年）以上の駅周辺を「地域の拠点」と位置付けており、こうした駅乗降客数と現行都市マスタープランにおける拠点の位置づけを考慮しました。</p> <p>※令和3年東京都統計年鑑のデータで、千駄木駅及び根津駅の乗降客数は、千駄木駅が約426万人/年、根津駅が約383万人で、茗荷谷駅約1,041万人/年、本郷三丁目駅約1,001万人/年、白山駅・本駒込駅約791万人/年、江戸川橋駅約736万人/年となっています。</p> <p>また、幹線道路沿いである不忍通り沿道については、都市拠点に準じた都市機能の集積と交流機能の充実、高度利用を図る都市機能上重要な沿道である「都市軸」として位置付けております。</p>
4		根津・千駄木の都市拠点としての位置づけについて	<p>根津・千駄木周辺では、不忍通りの拡幅工事を実施しており、それを機に再開発によって防災性能を高めるチャンスでもあるから、都市拠点としての位置づけを消さずに残しておく方がよい。根津駅の二つの出口のうち主要な出口にエレベーターがなく、今後課題となるので、高度利用が可能な方が、バリアフリーをしやすい。また、団子坂周辺は谷中墓地やよみせ通り、谷中銀座等の観光拠点があるので、今後は大きく変わる可能性がある。根津・千駄木は、下町の雰囲気をしっかり残していくというのも大事だが、都市拠点として駅前などを開発する余地を残しておいたほうが良いと考える。</p> <p>将来の根津駅のバリアフリーや都市計画道路の進捗を考えると、駅前の高度利用できる場所を高度利用したからといって、地域の下町情緒が消えるわけではない。下町情緒は有形的なものもあるけれども、無形的なものもある。観光客や高齢者が多い中、地域としてエレベーターやエスカレーターの設置なども必要で、時代が代わればできることもあるので、都市拠点の位置づけをしておいた方がよいのではないかと提案です。</p>	

ご意見			区の考え	
5	第4章	人口増加によるインフラ（小学校等）の課題について	<p>○まちづくりの成果にインフラの整備について記載がない。例えば後楽再開発が進められる学区の礪川小学校は令和2年から令和5年の間で既に100人増えていて、様々課題がある。本郷小学校でも増築の計画が進んでいる。再開発が進むと世帯数が大幅に増え小学校が足りなくなるが、敷地が狭くて増築も困難。こうしたインフラの問題を明記する必要がある。土地利用としてマンション等が増加するなかで、そうした課題があることを記載すべきではないか。</p>	<p>○都市マスタープランは、都市施設などハード整備を中心とした総合的な方針であり、教室等の不足、整備の規模等の学校施設の個別整備計画は、公共施設等総合管理計画等の個別計画で検討されるものと考えております。</p> <p>○都市マスタープランでは、今回の見直しの横断的視点のひとつに「人口構造変化への対応」を掲げ、そのなかで、「人口増加が続く中でも生活の質を向上させる」として、『人口密度が上がっても、区民一人ひとりの生活の質を向上させるため、オープンスペースや緑の量や質の向上、道路・公園や公開空地の活用による居心地の良い屋外空間の創出、生活利便性を維持・向上させるための施設の適正な配置などが重要です。』としており、『…公共施設整備や生活利便性を維持・向上させるための施設整備…』と修正し、人口構造変化を考慮した公共機能の維持・向上の必要性を記載しました。</p>
6		公共施設の脱炭素社会への対応等について	<p>○公共施設の脱炭素化、バリアフリーなどは率先して区が行っていくべきだが、今回、公益施設・大学等教育施設と公共施設とを分けたという点が大事かと思う。文京区では「公共施設等総合管理計画」も策定中なので、やはりこの点については大事だと思う。</p> <p>脱炭素化について、区としてのねらい、どのような方向性でこのようにしたのか、詳しく伺いたい。</p>	<p>○脱炭素については、社会的な課題として特に注目されており、多くのご意見をいただいております。その中でも、公共施設は先導的な役割を果たしていき、脱炭素だけではなく、バリアフリーやユニバーサルデザインといった点でも先導的な役割を果たしていく必要があるという観点から、第4章の「4-1 土地利用方針」では、「公益施設・大学等教育施設」と「公共施設」とを分けて方針を定めています。</p> <p>○公共施設については、ZEBやZEHへの対応だけでなく、つくるときから廃棄に至るまでの二酸化炭素の排出も注目されているので、そういった社会の動きも踏まえた先導的な取り組みについて記載しております。</p>
7		都市計画道路環状3号線パブコメの意見への対応について	<p>○都市計画道路（環状3号線）は小日向や小石川植物園あたりを突っ切っていくので、住環境の保持とは相反すると思うが、どのような形で整合性をとるのか。</p>	<p>○環状3号線については、地域や住民の理解が得られるような計画にしていきたいということをお示しを東京都に対して申し入れています。計画をお示しできる段階になったら、区としてもそういった観点から協議をしていくということになります。</p>
8		防災まちづくりについて	<p>○区民意識調査の期待度を見ると、防災まちづくりがどの地域でも一番期待が大きいということが分かる。都市マスタープランの中にしっかり反映していただきたい。</p>	<p>○都市計画マスタープランの改定に際しては、同様の区民アンケート調査を行って満足度を確認することを想定しております。区民アンケート調査だけではなく、関連する計画の指標等を事前に整理をした上で、議論していただくようにできればと考えております。</p> <p>○今回の見直しの横断的視点のひとつに「大規模災害への対応」を掲げ、「①建築物や施設の整備、土地利用の誘導による防災・減災対策」、「②災害にあっても都市活動が継続できる自立した都市づくり」、「③被災後もしなやかに回復できる事前復興対策」の視点から横断的に防災まちづくり施策を充実しております。</p>

ご意見			区の考え
9		避難所の生活の質の向上について	○災害時の避難所の質の向上は非常に大切な視点だと思う。単純に避難所をつくって提供すればよいということではなく、避難者が少しでも希望を持てるような避難所の質の向上をまちづくりの視点として考える必要がある。 避難所など様々な防災拠点となる学校について、災害時の利用を想定した動線計画など、まちづくりの視点として重要だと思うので、個別計画にしっかりと落とし込んでほしい。
10		災害時の昼間人口対策等、地域連携について	○避難所の課題は、都市マスタープランというよりは、地域防災計画の課題と思うが、文京区では、区民だけでなく昼間人口対策も難しい課題となる。千代田区、新宿区、台東区、板橋、北区といった周辺自治体との地域連携を考えていく必要がある。
11	第5章	防災まちづくりに注意を促す表現に工夫	○防災を身近に感じる昨今、木造密集市街地として、大塚五・六丁目や下町隣接地域の向丘・千駄木が重点地域に指定されている中、特に防災まちづくりについて注意を促す記載が必要ではないか。 ○今回の見直しの横断的視点のひとつに「大規模災害への対応」を掲げ、「①建築物や施設の整備、土地利用の誘導による防災・減災対策」、「②災害にあっても都市活動が継続できる自立した都市づくり」、「③被災後もしなやかに回復できる事前復興対策」の視点から横断的に防災まちづくり施策を充実しております。 ○第5章の「5-2 下町隣接地域」においては、『根津、千駄木は、不忍通りと本郷通りの後背地に、木造住宅が密集した状況になっているため、細街路拡幅整備事業や建築物の耐震化・不燃化の促進などにより、住環境の改善や住宅の防災性の向上を図ります。』としており、「5-4 山の手地域中央」においては、『大塚五・六丁目は、護国寺・豊島岡墓地の豊かな緑の空間がある一方、住宅地においては木造住宅が密集した状況になっているため、細街路拡幅整備事業や建築物の耐震化・不燃化などにより、住環境の改善や住宅の防災性の向上を図り、良好な住宅市街地を形成します。』としております。
12		下町隣接地域のまちづくり方針図について	○下町隣接地域のまちづくり方針図の矢印の位置が間違っているところがあるのではないか。 ○ご指摘の点を確認し、修正しました。
13	第6章	協働によるまちづくりの主体として生徒会の位置づけについて	○「協働によるまちづくりの推進」において「…区内に住む人、働く人、学ぶ人、地域活動団体（商店会、町会、任意の団体等）…」とあるが、そこに小中学校の「生徒会」を入れてはどうか。 ○第6章の「6-2 持続的なまちづくりのための推進方策」「(1) 協働によるまちづくりの推進」において、『都市マスタープランやまちづくりに係わる個別計画などの策定にあたっては、区内に住む人、働く人、学ぶ人、地域活動団体（商店会、町会、任意の団体等）、非営利活動団体及び事業者など様々な立場からの参加によって、意見の反映に努めて区民等が主体となるまちづくりを進めます。』を『…非営利活動団体及び事業者（企業、学校等）など…』に修正しました。
14		3D都市モデルの整備・活用について	○今後、3D都市モデルの整備・活用という記載があるが、豊島区の再開発の説明会で見たときに、非常に分かりやすくイメージが持ちやすい、すごくいい取組だと思った。将来的にはどのように区民への説明に活用していけるのか、どういったものになっていくのか、詳しく伺いたい。 ○第6章の「6-2 持続的なまちづくりのための推進方策」「(2) まちづくりの実現に向けた多様な手法の活用」において、「3D都市モデルの整備と活用などにより、区民等に対してわかりやすく齟齬のない将来イメージの共有し、合意形成を進めていきます」と記載しています。3Dモデルの活用については、国も推進をしており、都市マスタープランは2030年度を目標とした計画のため、今後、3Dモデルを活用して、より分かりやすくイメージを共有することが必要になってくると考えております。 ○あわせて、3Dモデルの利用についても、今後、研究していく必要があるという認識で、計画に記載しております。

ご意見			区の考え
15		都市マスタープランのPDCAサイクルについて	○都市マスタープランのPDCAのサイクルは、どの程度の年度でスケジュールを考えて、次の計画に反映されていくのか。
16		モニタリング指標について	○CHECK（評価）の欄に、「都市マスタープランに関連する総合戦略及び個別計画における目標値や実績値を定期的に確認し、適切に分析・評価します」と記載があるので、何らかの形で計画の目標値、実績値が数量化されていると理解するが、これは実際にどのような内容なのか。また、どのようにモニタリングしていくのか。
17		指標の公開性について	○こうした指標は開示されていくものか。あくまで会議資料として取り扱われるものなのか。
18	第6章	重点的・優先的な施策	○都市マスタープランの濃淡がわかりにくくなっているが、計画の中で、一番重要なもの、一番やりたいのはどこなのか伝わってこないのか、どこが一番やりたいところなのか、どこが最も緊急性が高いのか教えてほしい。
19		パブコメの意見への対応について	○パブコメで意見が536件寄せられているが、この中で最も多い意見というのはどのようなもので、それが計画にどの程度反映されたのか。反映されていないのであればその理由等を教えてほしい。
20		子どもの意見の聴取・反映について	○都市マスタープランの評価を含めて、子どもたちの意見はどこまで聞き取っているのか。パブコメで回答をもらう姿勢だけでなく、子どもたちの意見を聴き取りに行くという構造は、これからの時代に非常に重要だと思うが、どのような工夫を行い、意見を活かしていくのか。
			○PLAN【計画】：本文文京区都市マスタープラン2024見直し DO【実行】：見直し～次期都市マスタープラン改定の各施策や事業の実施 CHECK【評価】：「文の京」総合戦略等の定期的な確認、令和11(2029)年度の評価・検証 ACTION【改善】：令和12(2030)年度の次期文京区都市マスタープランの改定
			○都市マスタープラン見直しに当たって、想定するモニタリング指標として、関連する個別計画等における指標を掲載しており、次期都市マスタープラン改定の時期に個別計画の具体的な数字を把握しながら見直しを行ってまいります。
			○区の計画についてはホームページ等で、基本的に公開するので、指標もオープンになります。また、区民が参加している検討協議会でも資料としているので、誰でも見ることができます。
			○見直しの視点として、今回は、「文京区の魅力の継承と創造」を見直しの基本的な視点とした上で、「人口構造変化への対応」、「脱炭素社会への対応」、「大規模災害への対応」を重要視して見直しを行っております。
			○中間まとめのパブリックコメントで最も多かった意見は、飯田橋駅周辺のまちづくりについての意見で、それらの意見も踏まえ、飯田橋駅周辺については都市拠点として位置づけを行いました。
			○小中学生向けの簡易版説明用動画を作成し、「10年後の文京区をどのようなまちにしたいのか」や「動画を見た感想」を求める意見募集を学校で利用するタブレット上で見られるようにし、合わせて説明会の案内を行いました。